

『一つ上に出よ』
～荒波で疲れてはだめ～

イザヤ 40:28～31

Ⅱコリント 12:1～10

地上では猛威を振るっている台風も台風の上は驚くほど晴れています。又、台風の日（中心）も穏やかです。私達の目の前にある問題もこの台風に例える事ができます。私達が問題を雲の内側や下から見てると大きく見えるものです。ですから問題を雲の上から見なければ、その問題がどのような大きさなのか、どのように解決すれば良いのかわからないのです。問題を台風と例えるなら、その解決は台風の日（中心）から上に出る事です。私達にとっての台風の日（中心）とは何でしょう。もちろんイエス様です。あなたにとって、自分ではどうにもならないような問題が訪れた時、すぐに台風の日に行けば良いのです。私たちの解決はいつも目の前にあります。なぜなら目の前に見えているからです。そこにきちんと目的を見出しければ「試練とともに脱出の道も備えてくださいます」（Ⅰコリント 10：13）荒波にもまれている最中は苦しいです。しかし、少し離れればたいしたことはありません。私たちはいつも手前の問題しか見ていないので、沖のよさがわからないのです。中心に行ったつもりで目の付近にいるのでは一番風の激しいところで身動きがとれなくなってしまおうでしょう。ダビデは自分の前に主を置きました。また、『しかし、主を待ち望む者は、新しく力を得、驚のように翼をかってのぼることができる。走ってもたゆまず、歩いても疲れぬ。』（イザヤ 40:31）と御言葉にもあります。問題から逃げるから、いつまでも解決できないのです。逃げずに問題の中心に向かって進むべきなのです。イエス様を前に置き、少しでも早く台風の日に行き、そこから上に出るべきです。上に出る為に**①主を待つ**（イザヤ 40:31）問題は神が与えるものではありません。しかし、主を待つ為に問題があると言っても過言ではありません。問題が来た時こそ主を待って下さい。台風の日はいつも変わらず穏やかです。その日について行けばよいのです。悩みの中では自分はどうする事もできません。あれこれせず、イエス様の元に行けばよいのです。主を待つ為には自分のグッセマネで静まって祈ること、また心からの賛美を捧げる事です。イスラエルの神は賛美の内に住まわれます。私達の心の状態がいつも主を待ち望む準備をして賛美をする事が大切です。**②主の啓示を望む**。台風の日（主の元）へ行ったら次は「イエス様どうすればよいですか？」と主の声を聴いて下さい。わめくばかりでは、しっかりと聴く事はできません。しっかりと聴いた上で啓示を望みましょう。啓示とは神が示す、私達人間の力では知る事の出来ない、私達の将来の姿です。問題が起きたら、なぜ起きたのか、どのような意味があるのか神様に聴いて下さい、そして問題と啓示を照らし合わせてみて下さい。乗り越えられるあなたを神はご存知で、その問題を通して大切な事をあなたに示そうとされています。**③主にあって弱さを誇る**。（Ⅱコリント 12:9）中心付近で耐える理由はプライドです。だから主にあって弱さをほこらなくてはならないのです。弱さを誇るとはどういうことでしょうか。「私には無理。神様助けて」と祈ればよいのです。その弱さを認めることで、神の強さが表されるのです。自分で解決しようとするのではなく、あなたの弱さのうちに働く力強い神の力で解決して下さい。間違っただのであれば、間違っただころまで引き返し、新たに進んでいく。その謙った心が必要になります。私たちは問題の中で疲れ果ててしまう前に私たちの目の前に主を置き、問題の全体像を知りましょう。そこで一つ上に出て神の目線で物事を見続ければ、あなたは荒波で疲れる事なく、進んで行く事ができるでしょう！